

## 御笠まちづくり振興会設立趣意書

私たちが住んでいるこの御笠を、いつまでも“住みやすい 住みつづけたい 明るい御笠”であって欲しい。これは御笠住民全ての想いではないでしょうか。また、今月21日文化審議会から文部科学大臣に対し、宝満山を新たに国の指定史跡にするよう答申がなされ、近く指定されるという誠に喜ばしいニュースも入ってきました。

御笠地区の自然の恵み、何といてもそれは宝満山であり、これに源を発する宝満川の清流ではないでしょうか。それだけではなく歴史的な視点で見ると、この御笠地区には昨年国の史跡指定を受けた古代の阿志岐山城跡、あしきさんじょうあと霊山としての宝満山、あしきのうまや中世の山城跡。平野部では蘆城駅家等々、歴史的な文化遺産が点在しています。また、万葉集には防人大伴四綱等の歌も詠われています。私たちが住むこの御笠地区はまさに歴史的文化遗产の宝庫でもあります。このような自然環境、文化遺産は何が何でも次世代に、そして後世に引き継いでいかなければなりません。

筑紫野市は、平成21年3月、市内に7コミュニティ区域を設定し、それぞれの地域の特性や多様性に合わせ、地域住民が自主的・主体的にまちづくりに取り組むこと等を内容とした筑紫野市地域コミュニティ基本構想を策定しました。平成22年2月、市から御笠区長会に対し地域コミュニティ組織モデル地区として組織立ち上げの要請がなされました。このことを受け、区長会では8月に受諾を決議し、まちづくりのために御笠住民にどのような提案をしていくかを検討する委員会を編成し、平成22年度の半ばから今日まで都合35回の会議(企画会議・準備会・準備委員会・設立準備委員会へと節々で改編)、地縁団体・機能団体の代表者会議・学習会を8回、そして御笠住民への広報としてニュースを4回発刊(各家庭配布)してきました。会議や学習会を重ねる中で、この御笠でも防犯、防災、自然環境、不法投棄、高齢化、子ども育成、農業問題などいろんな課題が確認され、地域の問題や課題に対して、そこに住む住民が率先して参加し、自ら考え、行動し、解決していく住民主体のまちづくりを推進していくためにも、新しいコミュニティ組織(御笠まちづくり振興会)の必要性を確認しました。

モノや情報量の普及・増加によって、私たちの生活は一段と便利になりました。しかし、隣、近所、地域の人間関係はどうでしょう。個人主義という名のもとに希薄化しているのが現実ではないでしょうか。また、最近の経済の低迷に伴い国・県・市町村の財政状況は非常に厳しくなっているにも拘らず住民ニーズは多種・多様化し、公共サービスの領域はこれに応えることが難しくなっています。

“住みやすい 住みつづけたい 明るい御笠のまちづくり”を推進するために、安全安心、自然環境、地産地消、文化遺産、健康福祉、次世代育成及び生涯学習の各分野における地域活動の活性化を図るとともに市の行政機関との協働事業を推進することを目的として、御笠まちづくり振興会(コミュニティ運営協議会)設立を発起するものです。

平成25年6月30日

発起人代表 森 木 優 元

・綾部 正隆 ・市川 一 ・伊藤ひろみ ・井上 元生 ・臼井 徹男 ・鬼木 岩土 ・鬼木 克躬  
・鬼木 勝幸 ・小川 豊 ・北村 謙一 ・小西 信二 ・齊藤 奉文 ・佐々木泰博 ・戸田登喜雄  
・外山陽一郎 ・中嶋 紘二 ・中路 幸信 ・長谷 繁光 ・日永田忠孝 ・稗田 康生 ・平嶋 金重  
・平嶋 正一 ・平島 昌子 ・藤木 和啓 ・藤野 貫治 ・帆足 俊一 ・三原 瑞栄 ・粕井 廣海  
・森 哲男 ・森木 優元 ・矢ヶ部信一 ・八尋 優一 ・八尋 雄二 ・横山 勢司 ・渡部 登

(アイウエオ順)